

4 小学校における親子ブラッシング教室参加者の歯科保健行動の実態

○渡邊美幸, 小野真奈美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 親子ブラッシング教室, 歯科保健行動, 保護者アンケート, 歯科保健教育実習

はじめに

本学では, 平成元年より, 長岡市立表町小学校において歯科保健教育実習を実施してきた。これは3年生のPTAが中心となり, 企画されるもので, 毎年, 「親子ブラッシング教室」として実施している。当日は, 親子を対象とし, 歯科的知識の講話の後, ブラッシングの重要性について考えたりする機会となっている。親子参加や学校歯科医の同席など, 他校とは異なった取り組みをしている。小学校での歯科保健教育実習は, 児童への指導が中心になりがちであるが, 本教室は親子参加という特徴をもっており, 保護者を通じ, 児童の歯科保健行動の変容が期待できる。

そこで, 親子ブラッシング教室に参加した保護者を対象に, アンケートを行い, 家庭における歯科保健行動の現状を把握するとともに今後の課題について検討したので報告する。

対象および方法

対象は, 平成20年12月4日長岡市立表町小学校「親子ブラッシング教室」に参加した3年生の保護者30名で, 終了後にアンケートを行った。調査項目は, 家族構成, おやつとの与え方, 仕上げ磨きの実施状況, デンタルフロスの使用状況, フッ化物配合歯磨剤の選択・使用状況, 歯科医院への定期的受診の有無等である。回収率は100%であった。

結果および考察

対象者の家族構成は, 核家族が50%, 複合家族が50%であった。おやつとの与え方については「保護者が適時与える」が46.7%と最も多く, 次いで「子供が勝手に食べている」が26.7%, 「子供が欲しがるときに与える」

が23.4%であり, 複合家族において保護者が適時与える傾向が強く, 同居する祖父母に対しても正しい知識が必要であると思われる。また, 子供への仕上げ磨き実施状況は「毎日する」が13.3%, 「時々する」が30.0%, 「していない」が53.3%であった(図1)。この時期の口腔内は混合歯列期であり, 児童のみのブラッシングだけでは不十分である。保護者への仕上げ磨き指導は必須であり, その重要性や具体的方法について指導を強化する必要があると思われる。デンタルフロスの使用状況は「毎日使用する」が6.7%, 「時々使用する」が20.0%, 「使用しない」が73.3%であった。フッ化物配合歯磨剤の選択・使用状況については「選んでいる」が63.3%と最も多かったものの, 健康日本21の目標値(90%以上)には達しておらず, 保護者の予防意識を高め, 歯科保健行動の定着につなげる必要があると考えられる。

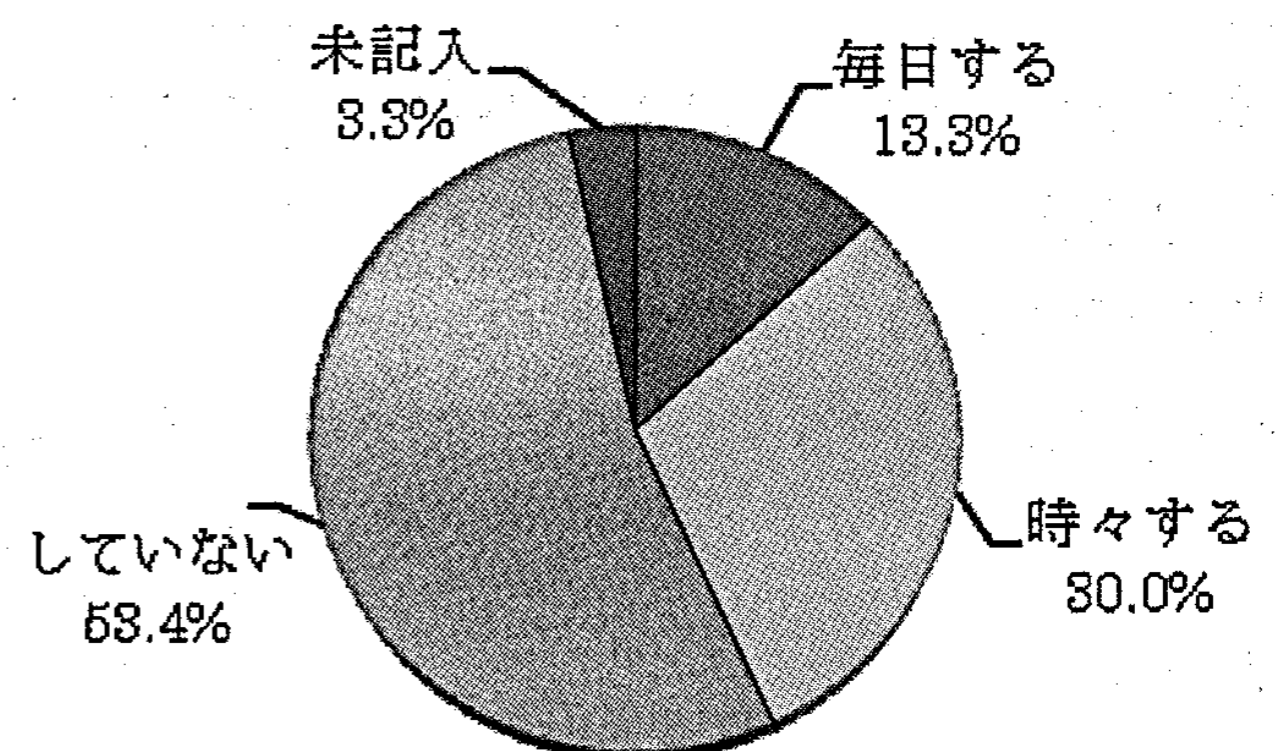


図1 子供への仕上げ磨き実施状況

まとめ

以上のことから, 親子ブラッシング教室において保護者に対し, 正しい歯科的知識を提供し, 予防意識を向上させることが重要であり, 今後も養護教諭や学校歯科医と連携を図り, 歯科保健行動の変容につながるよう内容を充実させていきたい。